

KAKEHASHI Project に参加した感想

2016年5月実施

【項目】

- 1) 一番印象に残ったこと
- 2) 一番印象に残った訪問場所
- 3) 一番学べたこと
- 4) 個人的な今後のアクションプラン
- 5) その他、意見や感想

電気電子情報工学課程 学部4年 M

- 1) University of Washington の規模の大きさ。ボーリング場、多くの図書館、学生数などが日本では考えられない規模で、学生との会話などは多くの刺激となった。
- 2) 場所： University of Washington
理由： テスト前であったためか、図書館を訪れると多くの学生が勉強をしていた。ただ、勉強をしながら Facebook をしているなど、日本の学生とあまり変わらない点も見ることができてよかった。
- 3) インターネットなどで情報を入手することと、訪問して見ることでは感じ方が多く違うことである。「百聞は一見に如かず」を多くの場面で感じた。
- 4) 国際交流活動に積極的に参加し、国際人としての教養を高めていくこと。
- 5) もう少し、観光よりは現地の人と話す機会などがあればよいと思った。大学でのプログラムにおいても、時間があまりに短く、不完全燃焼であった。

環境・生命工学系 修士1年 S

- 1) 現地では、どんな人とも挨拶をした後、簡単な会話に発展すること。
- 2) 場所： BOEING Factory
理由： 目の前で飛行機が組み立てられる光景を見学できたため。
また、英語での説明は、訪問先の中で一番知っている単語が多く聞き取りやすかった。
- 3) 渡航前では、米国は日本よりどんなことも優れていると思っていた。しかし、実際に現地へ赴いてみると、日本のほうが優れているものがいくつかあった。日本にも米国に負けない技術があることを知ることができた。
- 4) 国際交流活動に積極的に参加し、外国の方にとって日本がどのように見えているかを知る。客観的に日本を知る。
- 5) 米国は、明るくてオープンな人ばかりな国だと思ったが、シャイな人もいた。

電気・電子情報工学専攻 博士1年 M

- 1) スーパー等で食品や日用品の買い物をする際に、非常に量が多いことに驚いた。また小さな店舗等では商品を眺めているだけでもフレンドリーに店員が話しかけてきて楽しく買い物ができた。
- 2) 場所： DENSHO
理由： 日本の学校では（現地の学校でも）通常は教えられないことのない、日系アメリカ人の強制収容という歴史について貴重なお話や写真を伺うことができた。暗い歴史だけではなく、日本とアメリカのつながりが想像以上に深いということを確認することができた。
- 3) 小学校を訪問した際に、生徒達が自主的・能動的に授業に参加している様子が見られた。また大学訪問でも、学生達が大学や自国の歴史について高い興味・知識を持っており、日本とは教育・学習の方法が違うということを感じた。どちらが良いということはないが、これまで当たり前を受けてきた教育と全く違う環境で成長している人が居ることを学ぶことができた。
- 4) 国際交流クラブに在籍しているため、その場を活かして日本人学生や留学生に、積極的に KAKEHASHI という活動について伝える。また留学生には、帰国時に日本について発信してもらえよう促す。
- 5) 米国の人だけではなく、他大学の学生についても分野を問わず、米国との交流に感心のある人々と意見交換のできる環境は刺激的で有意義だった。

情報・知能工学系 修士2年 I

- 1) ワシントン州は、アジアから来る人達の玄関口ということもあり、多くのアジア人が生活をしていて、生活の発展に寄与してきたこと
- 2) 場所： BOEING Factory
理由： 航空機が目の前で組み立てられていることや、最新式のモデルでは日本の企業の多くが開発に携わっていたことを知れたから。日本の技術的な地位は、今でも世界で一流なのだということに気が付けた為、今後は日本の技術者として今まで以上に素晴らしい製品を世界中の方々に向けて作っていきたいと思った。
- 3) 日本の良さをアピールする良い製品や技術があったとしても、それを上手に面白く発表出来る英語力や表現力が無いと興味を持ってもらえないことを学びました。そのため、今後はもっと表現力豊かな人間になり、かつ英会話力もつけていきたいです。
- 4) 世界中の方とコミュニケーションを積極的にとっていく。また、日本の文化を伝えるときには、日本人が好きなものをおすすめするだけでなく、海外の方から見た日本の良いところもアピール出来るようにリサーチしておくようにする。
- 5) アメリカはフレンドリーな方が多く、人とコミュニケーションをとるという本質のようなものを感じ取れた気がしました。

機械工学専攻 修士1年 M

- 1) 何もかもが大きかった。大学の広さや食事の量，日本とは国土の大きさも違い，それに
応じた生活の違いが印象に残った。
- 2) 場所： BOEING Factory
理由： 航空機の製造工場を見学したのは初めてで，その規模の大きさに驚愕した。製造
機を飛行試験も，敷地内で行っており，効率の良さがうかがえた。
- 3) 発信することの大切さである。自分たちを知ってもらい，実際の印象や想像との相違を
打ち消していき，より良く理解してもらうことが，今後の交流に影響してくると感じた。
- 4) 積極的に海外へ行き，日本について発信していく。自分の生活や食べ物など身近なこと
について発信することが重要だと感じた。
- 5) KAKEHASHI Project では，大変貴重な体験をすることができた。今後もこのような機
会を増やしていき，多く人が積極的に海外を経験するべきだと思う。

建築都市システム学専攻 修士2年 T

- 1) 訪問先でみんな日本に興味を持ってくれて，日本のことについてたくさん質問してく
れたこと。
- 2) 場所： 学校
理由： 小学校での日本と米国の教育のやり方の違いを感じることもできたため。米国の
小学校教育はそれぞれが考え，想像力を育てるような授業内容であった。
- 3) アメリカで作っている日本食がアメリカ人受けするようにアレンジしているように，
日本の技術を世界に売り出すためには，ただ技術力が高い製品でなく，その地域のニー
ズに合うようにアレンジする必要があることを改めて学んだ。
- 4) 個人的につながっている本学の留学生や外国人の方と積極的にコミュニケーションを
とり，異文化の理解を深める。さらに，今回の経験を活かして日本の文化を伝えられた
らと思う。
- 5) 他大学の発表や交流を通して，自分の知らない日本の魅力がまだまだたくさんあることを
知った。日本の魅力をもっと学び，広めていきたいと思う。

建築都市システム学系 修士1年 Y

- 1) 一番印象に残ったことはアメリカの大きさです。やはり、国が広いと様々なものが大きくなるのだなと感じました。食べ物が大きければ、人も大きい。文化的に物の大きさの単位が日本とは異なっているのだなと非常に印象に残りました。
- 2) 場所：Boeing 社見学
理由：飛行機の工場という、世界最大規模の建築に圧倒されました。工場自体も大きかったです。移動の通路やエレベーター等も非常に大きく作られており、アメリカの大きさを感じられたような気がしました。英語がもっと理解できるようになったらまた訪れ、もっとしっかり内容を理解したいと思える場所でした。
- 3) 一番学べたのは、自分から積極的に話しかける事で交流が起こるとということです。話しかける前は話しかけていいものか非常に迷いましたが、思い切って何の話をしているの？と話しかければ、快く会話に入れてもらえました。世界中どこでもこれは共通のことだと思うので、今後も自分から積極的にコミュニケーションを取っていきたいと思います。
- 4) 今後のアクションプランとしては、まずは自分のコミュニケーション力や、英語力を向上させていきたいと思います。今回の KAKEHASHI プロジェクトで連絡を取るようになった国内の他大学の生徒と今後も交流を続け、日本国内の文化を学び、更に深く日本文化を発信できるようになりたいです。
- 5) 今回のプロジェクトでは、沢山の場所に連れて行ってもらい、様々な経験をさせて顶けました。しかし、盛りだくさんすぎて、現地の学生との交流時間が少なかったのは残念だったと感じました。

電気電子情報工学系 学部4年 M

- 1) ワシントン大学の学生が、「金融コンサルタントになる。」など明確な夢や目標をもっていったこと。
- 2) 場所：BOEING Factory
理由：ギネス世界最大の工場で、目の前で飛行機が組み立てられる光景を見学できたため。非常に大規模だったこと。
- 3) 現地の若者も、自分たちと基本的には同じだったこと。負けてられないなと感じた。
- 4) 「勉強に取り組むこと」や「クラブ活動に取り組むこと」、目の前のことを世界から見た視点で取り組む。小さな考えを捨てる。アメリカは、学歴を人事のデータに入れないほど、看板がない。だから、本当に勉強したい人たちだけが、大学へ行っている。何のために大学に行っているのか、その解釈を変える。
- 5) 一緒に行く日本人学生も、個性豊かな人たちが多かった。個性をのびのびと伸ばしていきたい。

環境・生命工学系 学部4年 N

- 1) 抹茶は多くの方が興味を示すが、彼らが想像している抹茶の味は実際のものとは違うということ。
- 2) 場所：SPSCC
理由：多くの方が抹茶に興味を示してくれたから。
また、海外の方が日本の抹茶に対してどのようなイメージを持っているかを知ることができたから。
- 3) 海外でブームになっている抹茶はほとんどが何かしら方法で甘みがつけてある。そのため、抹茶は甘いものと思っている人が多く、抹茶そのものが持つ味を知らない人が少なくない。海外の方に抹茶をふるまう場合、彼らが飲みやすく、また、楽しみやすくするための工夫が必要である。
- 4) 今回は、「抹茶の味を知ってもらうこと」に重点を置いたが、今後は茶道という日本の文化を通して、日本人がどのようなことを感じ、どのような精神を培ってきたのかということを広めていきたい。そのため、日本語でのみならず、英語でも茶道について話せるようにしていこうと考えている。私が所属するおちゃのかいは世界のお茶会をはじめ、多くの学校行事に参加している。また、活動中であれば、日本人、留学生、また、外部の方であっても無料で一服ふるまっている。しばしば、留学生の方が訪れてくれるので、そのような機会に茶道というものを広めていこうと考えている。
- 5) 抹茶は甘くなることによって海外に受け入れられたのだと思う。

建築・都市システム学専攻 修士1年 Y

- 1) 現地でどこへ行ってもトヨタの車が多く走っていたこと。
- 2) 場所：ワシントン大学
理由：施設の大きさ、数、敷地の広さ、食堂施設や娯楽施設の充実性など全てにおいて規模の違いに圧倒された。また、大学関連のグッズを取り扱った店もあり大学自体が観光スポットとなっているようなところにも驚いた。
- 3) 戦時中の日本人、日系アメリカ人へのアメリカの対応、差別を学んだことで、今日の日米の関係が途方もない努力で信頼を勝ち得た上に成り立っていることを感じ、これからも世界に信頼されるよう努力を続けるべきなのだと思う。
- 4) 現地の学生とダンスを通じて友達になり、フェイスブックでもつながったので、まずは彼らに日本の魅力を発信していきたいと思う。
- 5) 過密な日程あったが、その分充実していたように思える。食べ物が合わず、体重が減ってしまったが、食も含めて文化を感じることもできたと思う。

電気・電子情報工学系 修士2年 M

- 1) レストランの従業員やバスの運転手さんなど仕事をしている人にやる気が感じられた。
- 2) 場所：ワシントン大学
理由：施設が広くて建物も歴史があり美しく、福利施設なども大変充実しており日本の大学との違いを感じた。
- 3) 小学校の授業や、ビル&メリнда・ゲイツ財団での展示など非常にクリエイティブで考えさせられるような内容が多かったように思う。このような自由な発想が育まれる環境がアメリカらしい思想を作っているのかと思った。
- 4) 現地に行った際に、説明してくれている英語が聞き取れないことや、何かを言いたいときにとっさに英語が出てこずに会話に入れないことなどがあったため、まずは英語をもっと勉強し実際に留学生との会話や、海外に行くときに使っていきたいと思う。また、日本の観光地などに行った際に facebook や instagram を通じて海外へと発信していきたい。
- 5) 日本に興味を持っているアメリカ人の中にはやはりアニメから興味を持ち始めた人も多く、こちらにもある程度の知識があれば会話が広がりよかったと思った。アニメに限らず日本人が外国人の感じる日本の魅力というものを知り、発信したり、共有できるようにしておく必要があると思った。

環境・生命工学系 学部4年 T

- 1) 流暢、綺麗な英語が話せない自分に、シアトルの方々は思いの外優しくお話ししてくれたこと。
- 2) 場所：University of WASHINGTON
理由：全体的に施設が大きい。そしてきれい。大学内に居住できるスペース、レクリエーションや、食事スペース、そして一番は教会のような図書館が感動した。
自分もいつかこんな素敵な場所で勉強してみたいと思った。
- 3) 自分の英語の弱さ。これはかなり実感した。特にリスニングとスピーキングの練習をしとけばよかった。本当に痛感して、個人的に悔しい思いをした部分があった。
- 4) これは 3)につながるのだが、「話せる英語」を鍛えたいと思った。そのカケハシが終わってから日々英語の勉強に力を入れている。結果は出てなくてつらい部分はありつつも、英語が好きになってきた。
- 5) 今回このようなプロジェクトに参加できてよかった、と自分は心から言える。海外の人だけではなく同じグループの他大学の学生とお話をしていて、自分が井の中の蛙であることを実感したし、最終日の前日は話し込んだのもあって自分の将来像が強く見えたような気がする。本当に感謝している。

機械工学課程 学部4年 U

- 1) 車社会でどこに行くにも車やバスで移動という印象でそのため広く幅の広い道がほとんどで驚いた。
- 2) 場所：Boeing 工場
理由：その工場は自分がみたことのないスケールで工場建屋内はあまりの広さに目が回るほどであった。そこで、巨大な航空機が造られていてとても印象に残った。
- 3) 日系人のアメリカでの経験や現状を学べたこと。今までアメリカでの日系人のことをほとんど知らなかったが今回の公演で彼らの話を直接聞くことをできて、今でも各地にコミュニティがあること日本人としてではなくアメリカ人として生きている人もいるなど今まで知らなかったことが学べてよかった。
- 4) 今後も今まで通り、学内のみならず学外でも国際交流活動に力を入れていく。現在すでにTUTで行われるTUT EXPO 2016へのチーフスタッフとして協力をしている。

機械工学専攻 修士2年 Y

- 1) 道がひろい、何でも日本のものより大きい
- 2) 場所：ワシントン大学
理由：同じ年代の学生と話すことができ、いい刺激になったから。大学の施設が本学よりも充実していた。
- 3) 日系人の迫害の歴史、そしてどのようにそれらに立ち向かったのか。日本人として日本の歴史だけではなく、海外で、日本人がどのように扱われていたのか、そして、その障害にどのように立ち向かい、乗り越えたのかを知ることは重要だと学びました。
- 4) 日本代表という意識をもち、本学の留学生と積極的に接し、日本の魅力を伝える。(研究室のメンバー、友達などに) また、SNSを使用し、日本の魅力を海外に発信する
- 5) 米国学生と接する機会をもっと増やせばより良くなると思う。また、内容も日本側が一方的に日本の文化、技術をプレゼンするのではなく、米国と日本学生が一緒に何かできるアクティビティのほうが良いと思う。

機械工学専攻 修士2年 M

- 1) 授業で一人一台 iPad を使うなど日本の教育とは異なり、個人の創造力や発想力を伸ばそうとしているところ
- 2) 場所： BOEING Factory
理由： 飛行機が組み立てられる光景を実際に見られ、世界最大の工場の大きさを実感できたため。また、日本の企業も飛行機の製造に携わっており、中でも炭素繊維の技術が凄いと思ったため。
- 3) 海外経験が初めてであり最初は不安であったが、簡単な英語で会話も買い物をする事が出来た。また、実際に行って初めて気づく日本の良さやアメリカと違いを知ることが出来た。
- 4) 国際交流活動のイベントに積極的に参加する。また、数は少ないが奨学財団で留学生と交流する機会を通して外国の文化について知る。
- 5) ワシントン大学では食堂が飲食店みたいであり、娯楽施設もボウリングやビリヤードがあるなどすごく充実していて驚いた。また、桜がたくさんあったのも印象的だった。

情報・知能工学系 修士2年 K

- 1) 英語で伝えたいことを伝える難しさ。詳細なニュアンスを伝えるのには苦勞する。
- 2) 場所： ワシントン大学
理由： 豊技大と比較して、規模が大きく、学習環境も良好だと感じたため。
- 3) チップを渡さないとキレられて、最悪の接客をされること。
- 4) 国際交流活動に積極的に参加する。
- 5) 食に関しては無念が残っているので、もう一度渡米してグルメ旅を執行したい。

情報・知能工学系 修士1年 U

- 1) 日本と異なり、車社会であること。毎日バス移動であったため、車線の多さや交通量の多さに驚かされた。
- 2) 場所：Washington State Capitol
理由：このプログラム以外では、そもそも訪問することが困難であるため。また、実際に議員の方々に近い距離でお会いできた貴重な経験であったため。
- 3) 日本とアメリカの関係を総領事の方から伺ったことで、想像していたよりも貿易の結びつきが深いことが分かった。また、DENSHOの方から貴重なお話を伺ったことで、その昔日系人の方々が苦勞しており、そのおかげで今の日米の関係があるのだと学んだ。
- 4) 渡航前に考えていたプランと同じであるが、在学中に国際学会に参加することで英語での研究発表(と簡単な質疑応答)を行う。
- 5) 現地で交流した際に、座学でだけでは身につかない英語力があると感じた。実際に体験しないと分からないことなので、後輩にも是非勧めたい。

電気電子情報工学系 修士1年 M

- 1) 日本車が結構な割合で走っている。トヨタ以外にも NISSAN やホンダもあったため、日本の自動車業界の技術力の凄さを物語っていると思った。
- 2) 場所：Boeing Factory
理由：旅客機の製造工程を見たのは初めてだったため。あれだけ広い敷地を持った工場を建てる事ができるのもアメリカの広い敷地のためだと思った。
- 3) プレゼンテーションに必要なことは英語力ではなく、聴衆の興味を惹きつける間のとり方や演出だと感じた。聴衆がネイティブスピーカーしかいない状況だからこそ、気づくことができたと思う。
- 4) 今後、本学に留学してくる留学生と交流を深め、日本のことを好きになってもらう。本学で行われる国際交流行事に積極的に参加したい。
- 5) アメリカについて感じるだけでなく、日本について考える機会となった。大変有意義な一週間だった。

電気・電子情報工学系 学部 4 年 M

- 1) アメリカでは道路もホテルも地方の普通のショッピングモールでも、とにかく規模が大きいと感じた。
- 2) 場所：Boeing Factory
理由：日本では考えられないほど広い敷地面積に工場があり、日本のどの空港よりも飛行機の機体が駐機していたのが鮮明に覚えていることと、工場内で最新の 787 機の部品に日本の素材が本当に使用されていることが工場内に説明として書かれており、誇りに思えた。
- 3) 西海岸であるシアトルに行ったからだと思うが、意外と日本というものが浸透していると思いました。それは現地の形にあったテリヤキであったり、かなり旧型のホンダやトヨタ車からプリウスなどの車、東京や大阪のことを発表待ちの時間に説明すると意外と学生たちがしっていたりと浸透しているところもあった。これは先人たちのがんばりであるとも思ったし、私たちがより、文化の浸食ではなく、現地にあった形でより日本のことを浸透させ、相互理解がより進めばいいと思いました。
- 4) 今現在でも行っていることが、#(ハッシュタグ)を活用し、instagram にて日本の名称を #japan などの形で発信し続けている。また、積極的に海外学生との交流や街中で困っている外国人を見つけたときは道案内や会話などを行っている。
- 5) 工学部の大学生として、技術の進んでいる航空機の開発製造分野から、意外と日本よりもかなり旧型の車を乗りまわして街中を移動する人々、エアコンのききの悪さや、日本よりも郊外への低密度運行である公共交通機関などさまざまな技術的、社会的場面を見ることができた。アメリカの道路はかなり大きく車社会の代表であるのがシアトル都心の 6 車線の無料高速道路であった。国が違えば文化や社会的構造も違うという貴重な体験をこの架け橋プロジェクトで経験でき、現地での大学生との交流での工学部学生との話がとても面白かった。また、小学校訪問での IT の活用には脱帽であった。逆にアメリカから見た時も日本の進んだ部分や遅れた部分が見れると思うが、相互に技術革新を続けていけば素晴らしい未来がお互いに作れるのではないかと思った。

情報・知能工学系 修士1年 Y

- 1) 日本語を学ぶアメリカの学生は日本の文化に対する理解がとても深く、プレゼンに対して非常に興味をもって聞いてくれたこと。
- 2) 場所： **Bill & Melinda Gates Foundation**
理由： 新しいアイデアが湧きそうなアイテムがたくさんあり、どれも日本にはないアプローチの仕方で圧倒された。日本の IT 企業では数十年経ってもこのレベルの財団を建てられるところはなさそうなレベルであった。
- 3) 1週間では日本のものがどれくらいアメリカで浸透しているのか把握するのは難しいが、その中でもトヨタ車を見たり、プレゼン中のウォシュレットなどに対する反応を受けたりすると日本のものづくりはまだまだ戦略をもって売りこむ必要性があると感じたこと。
- 4) 英語版でのスマートフォンのアプリケーションを開発する。
- 5) **KAKEHASHI** プロジェクトの継続を望んでいる。